

2021年5月14日  
環境社会配慮助言委員会委員長 原嶋 洋平  
担当ワーキンググループ主査 織田 由紀子

フィリピン国中央ミンダナオ高規格道路整備事業  
(カガヤン・デ・オロ市—マライバライ市区間) (協力準備調査 (有償))  
スコーピング案に対する助言

**助言案検討の経緯**

ワーキンググループ会合

- ・ 日時：2021年4月26日(月) 14:00~18:35
- ・ 場所：オンライン会議 (Teams)
- ・ ワーキンググループ委員：石田委員、小椋委員、織田委員、源氏田委員、柴田委員
- ・ 議題：フィリピン国中央ミンダナオ高規格道路整備事業 (カガヤン・デ・オロ市—マライバライ市区間) (協力準備調査 (有償)) スコーピング案についての助言案作成
- ・ 配付資料：
  - 1) 【事前配布資料】フィリピン国中央ミンダナオ高規格道路整備事業 SC 案
  - 2) 回答表
- ・ 適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン (2010年4月)

全体会合 (第124回委員会)

- ・ 日時：2021年5月14日(金) 13:59~17:38
- ・ 場所：オンライン会議 (Teams)

上記の会合にて助言を確定した。

## **助言**

### **全体事項**

1. 山間部及び 3 つの水系と多数の支流を横断する事業であり、事業地域周辺には先住民の居住エリアが存在し、地域の水象と生態系並びに社会的弱者に与える影響が想定されうるため現地調査の精度が重要である。そのため本調査はコロナ禍における調査であることを踏まえ、現地調査が困難な場合、現地のリソースを最大限に利用した調査とすること。

### **代替案の検討**

2. 代替案の比較検討に用いられた評価クライテリア設定の妥当性について記述する必要がある。そのため、評価の項目、配点を含めた評価方法について更に丁寧な説明を加えると共に、実施機関と合同チームを設けて評価を行ったこと、マスタープラン及びプレ F/S 段階における検討の経緯、各案の環境社会面の優位性の検討内容について DFR に記載すること。

### **社会配慮**

3. 高規格道路による地域分断が及ぼす環境社会面に対する影響を調査するとともに、地域分断を回避あるいは最小化するための横断施設・機能補償道路等について検討すること。
4. 高規格道路がバイパスとしての機能も果たすことによる現道周辺地域への具体的な影響や範囲を F/S 段階で調査し、影響が予見された時点で、ステークホルダー協議(SHM)への被影響住民の参加を勧奨し、必要に応じた社会調査を実施すること。生計への影響が調査・SHM 等で予見される場合には社会影響の緩和策の一環として、売上減少や雇用機会の喪失に起因する生計への影響に対する配慮を行うとともに、生計回復策(地域振興に資する対策を含む)を検討するよう実施機関に申し入れること。
5. 先住民の土地家屋、農地や狩猟・採集域、伝統行事や慣習等について調査を実施し、必要に応じて先住民との詳しい協議を調査に含めて行い、影響が想定される場合は緩和策の検討を行いそれらの結果を DFR に記載すること。

### **ステークホルダー協議・情報公開**

6. コロナ禍における、ステークホルダー協議、住民協議については、基本的な衛生管理の下、会場を屋外にする、face-to-face とリモートによる参加の併用にするなどの対応を行うこと。また、感染拡大により現地調査が困難な場合は、スケジュールの見直し、現地のコンサルタント等を活用するなどの検討を行うこと。

以上